

【出席者】(敬称略)

常盤、片平、古川、古城、臼井、浅井、久保、丸山、松永、松崎、今田、松山、大槻、正富、大下

I. 今田さん発表:「モノ学の冒険(鎌田東二)」第一部 心とモノの魂について 河合俊雄 P87-P98

*紙資料及びパワーポイント資料参照。

【議論】

常盤:『ヒトとモノとの対話が在っても良いのではないか』-----愛魂と言う語もある。

『モノにも心があるからモノづくりをはじめる』-----と言うのも一論。

片平:『モノには作り手のメッセージが元々有った』はず--①

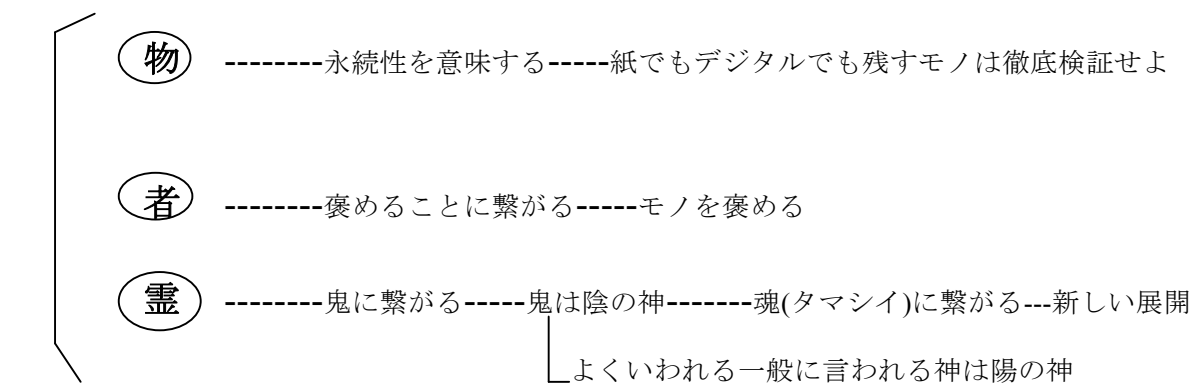
『信じられるモノ、魂を込めて作ったモノには愛着が強い』②-----これが 職人魂 等と言われるモノ。

但し、昨今は ①が トントン軽くなり、愛着が軽くなっているようだ。

モノとは経済データ比較の対比に使うボリュームゾーンのようなモノだけではない。

①②は筆を使うか道具を使うかだけの差で 芸術家 と 職人 という言葉に繋がる。ベースは同じ。

フリー:モノを表現する以下の三つの字は特に意味深いことが多い。



モノを示す意外な言葉は多い、例えば narrative---物体、物語の意味
 narration--ナレーション、叙述
 モノは価値観と同じく議論が必要な場合がある-----中古品、オークション
 *本・モノ学の冒険の冒頭にも以上と似たような記述がされている。

II. 常盤先生の話

最近のトヨタの件ではモノづくりを考えさせられた。これを契機に前向きにいろいろと対処していくのが大切ではないか。

モノづくりには 技術の観点と心の観点が必要なのではないか

今回のトヨタの件は一業種を越えて全産業に波及している-----企業のヒトからの発言はやや少なかった-----明日はわが身の心で構えたのか。学者先生からの発言は良く聞いた。反面教師と言うこともあり日本全体のモノづくりには必須のこと。その中の指摘であった『ユーザーからの見方』は確かに今迄

足りなかったかもしれない。『美しい経営』と言ったことはあっても良い。

モノづくりには 技(わざ)と心がある

車の構造の複雑化、電子化、多様性化にも問題があるのではないか。

例えば『ブレーキの抽象化』----ブレーキにも種類がある。アナログの板ブレーキ、デジタルの耐性ブレーキ、ABS 等と。

①開発に注力し過ぎて、できたモノの品質検証が不足しているのではないか

マシンとヒトとのインターフェイスで問題が起きているのではないか。機械とヒトの対話が不足しているのではないか。ヒトはアナログな生物。デジタルマシンにコントロールされる現況で良いのか。デジタル化でブレーキとアクセルも統合されている。不具合の解決としてマシンの更なる複雑化、電子化をしていくが、この機械頼みのサイクルは何処かで壁にぶつかるのではないか。

②『作ると使う』をもう一度考えるべき

大量の販売を目指した車の複雑化(作る側の考え)とヒトの慣性・能力(使う側)とでは間(距離)が空き過ぎではないか。

③このへんでモノづくりを根本的に考え直してみてもどうか

産業界でのモノづくりには二種類あるのではないか

イ. 一般品-----品質と価格で勝負。

ロ. クリエイティブな製品----イと土俵が違うのではないか。多少のムダを費やしても、回り道をしてでも検証していくことが必要。

例えば『エコ』という言葉-----新しい言葉でもない、大変よく使われる、やや宛先不明なメッセージのようだ。

『質』の意味は-----使いやすさ、安全性、快適性を正しく求めるべき。このことを確保しなくては中国、韓国等に勝てないのではないか。

以上